

## 奈良県における取組

### ■ 管路更新事業費の削減

	計画前
更新事業費	1,534億円
撤去事業費	138億円
合計	1,672億円



	計画後
更新事業費	1,038億円
撤去事業費	143億円
合計	1,181億円

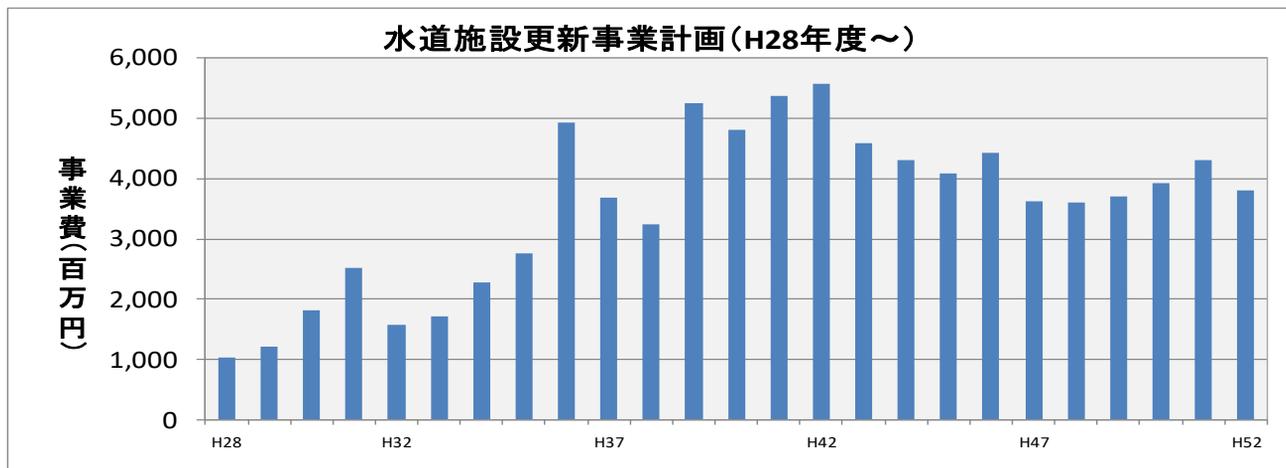
約491億円の  
コスト削減

	容積 (m3)	比較 (%)
現行	170,793	-
ダウンサイジング更新	88,203	51.6
容積比較	▲ 82,590	▲ 48.4

更新管の容積比は  
▲48.4%削減

### ■ ダウンサイジングを考慮した管路更新計画

管路の更新には長期にわたり多額の費用が必要となるため、老朽度の評価とともに管路の重要度や漏水等の発生状況を考慮して管路の更新基準を定め、計画的に工事を実施するため平成27年度に「管路更新計画」を策定した。



# 【現状と課題】

奈良県では、高圧送水の必要性から鋼管の使用が約6割と高い。鋼管は一律に耐震性があるとして、更新の際は補助対象外である。

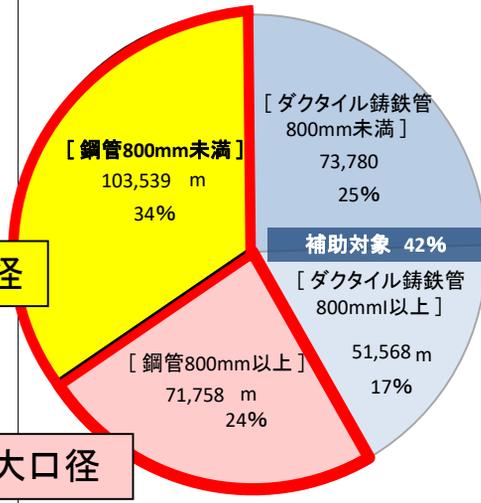
しかし、特に昭和50年以前布設の小中口径鋼管は、継手部が適切に施工されていないことが指摘されており、本県においても、漏水事故が多発している状況。

(※「平成25年度管路の耐震化に関する検討報告書」による)

このような耐震性の低い小中口径鋼管を、耐震化する際に補助制度を有効に活用出来ない。

## ■奈良県の送水管路の状況

鋼管比率 約60%



## ■管路の事故率

管種別管路の機能予測式 (出典: 水道技術研究センター)

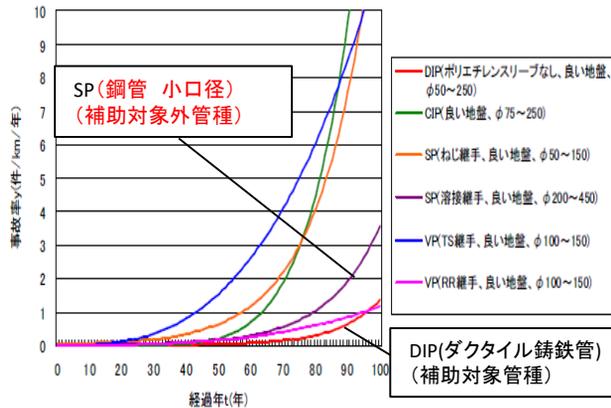


図-1 管路の機能劣化予測式の一例

## ■漏水の原因となった鋼管

(平成29年8月発生)



桜井市第1ブランチからの送水枝管での漏水事故

## 国にお願いすること

水道管路緊急改善事業の拡充

補助対象管種に鋼管 (小中口径) の追加